

『見ることに言葉はいるのか』訂正表

頁	70
行	11~15
原文	<p>彼は「複合的存在者」を「互いの外にある諸部分からなる全体」(M. § 224)と定義する。この定義で、彼は全体と「複合的存在者」をほぼ同一視している。そのうえで、彼は「複合的存在者」を「広義の複合的存在者」と「狭義の複合的存在者」に区分する (Cf. M. §§ 224 f.)。前者は、複数の偶有性からなる複合体、後者は複数の実体からなる複合体である。つまり、彼は複数の実体からなる複合体だけでなく、複数の偶有性からなる複合体、例えば単独の個体も全体とみなしていたことになる。</p>
修正文	<p>彼は「複合的存在者」を「広義の複合的存在者 (ens compositum latius dictum)」、「(狭義の単なる) 複合的存在者 (ens compositum (stricte et simpliciter dictum))」、「(最狭義の複合的存在者 (ens compositum strictius dictum))」に区分する (Cf. M. §§ 224 f.)。彼は「広義の複合的存在者」を「諸部分を持つ全てのもの」(M. § 224)、「(狭義の単なる) 複合的存在者」を「互いの外にある諸部分からなる全体」(ibid.)と定義している。後者の定義からは、彼が全体と「複合的存在者」をほぼ同一視していることが読み取れる。さらに、彼は「(狭義の単なる) 複合的存在者」には、a. 複数の偶有性からなる複合体、b. 複数の実体からなる複合体、という二つのタイプがあることを指摘した上で、b. を「最狭義の複合的存在者」と呼んでいる (Cf. M. § 225)。したがって、彼は複数の実体からなる複合体だけでなく、複数の偶有性からなる複合体、例えば単独の個体も全体とみなしていたのである。</p>